



多重極限物質科学研究センター研究発表会の部

物性研究を基軸とする教育・研究を行い、社会に貢献することが物質理学研究科の目的です。これを達成するために、本研究センターは“一桁上の多重極限条件”を掲げています。一桁上の極限条件下実験手法を確立し、新奇物性現象の発現と解明を目指す卓越した研究・教育の場を実現し、高いレベルの理学の教育と研究を実践することを目標としています。今回の研究発表会では、センター所属の博士前期課程2年生が修士論文の進捗状況を報告し、センター全教員による分野を超えた研究指導を行います。

会場 理学部 研究棟 739号室

日時 2016年12月22日 (木) 9:00~12:00

プログラム

9:00	開会の辞 小林寿夫 多重極限物質科学研究センター長
9:10	エックス線光学分野 香川 咲貴 デュモンド図形測定による放射光ビームの特性評価
9:25	光物性学分野 白石 龍太郎 放射光時間分解X線回折法を用いた半導体単結晶における高速光歪現象の観測
9:40	電子物性学分野 小形 慎吾 近藤強磁性体CeAgSb ₂ における量子臨界現象 田中 博之 強磁性超伝導体UGe ₂ における超伝導特性のドメイン状態依存性
10:10	休憩 10:10~10:20
10:20	極限状態物性学分野 近藤 憲亮 フォスフォレンの高圧ラマン分光 高橋 一規 インジウムのリエントラント圧力誘起構造相転移 宮本 棕介 水素の超臨界流体相のラマン分光
11:05	機能性物質学 分野 森 雄一 ZnPc:C60 ハルクヘテロ接合型太陽電池の光CELIV測定 吉田 恵亮 蓄積電荷測定法によるフタロシアニン薄膜の電荷注入障壁決定 安川 直人 導電性高分子P3HT薄膜の仕事関数測定
11:50	閉会の辞 赤浜裕一 兵庫県立大学大学院 物質理学研究科長
11:55	写真撮影 11:55~12:00

